

平成25年度

事務所だより



第46号
平成25年11月27日

浜田教育事務所

☆企画幹あいさつ (P1)
☆人権同和教育について (P2)
☆特別支援教育について (P3)

☆特集 学力向上 (P4~5)
☆派遣指導主事より 江津市 (P6~7)
☆情報の活用を! (P8)

“ふるさと教育”も “キャリア教育”

社会教育スタッフ企画幹
社会教育主事
寺本典則



「ふるさと教育推進事業」は第4期に入ります

社会情勢の急激な変化，生活様式や価値観の多様化の中で，希望や夢を見いだせないでいる子どもたちがいます。

しまねの教育のよりどころとなる「しまね教育ビジョン21」には，「ふるさとを愛し，未来を切り拓く子どもを育む」というサブタイトルがつけられています。そして，「島根の特色を生かした教育」として，いっしょに「ふるさと教育」を挙げています。その「ふるさと教育推進事業」は平成17年から始まり，3年単位で進めてきて今年が3期目の総括の年となりました。第3期は，①量的充実 ②質的充実を目標に進めてきましたが，それぞれの市町・各学校では，子どもたちにどのような変容や成果があったのでしょうか。「教育は100年の計」といいますから，学校・家庭・地域の熱心な取組は，子どもたちの将来への保障となり，子どもたちは島根の宝として育てていることと思います。それを振り返り，第4期のふるさと教育の一層の充実を図るようキャリア教育の視点を大切にしながら進めていきます。

将来への希望・夢がもてる子どもの育成

「ふるさと」を学習素材にしたり，地域の方と一緒に学んだりすることは，子どもたちにとって具体的で実感ももてるため，学習意欲の向上にも人間力の育成にも，大いに効果があります。

多くの学校で取り入れておられる「神楽」の学習では，神楽の歴史や他地域の神楽について調べたり，地域で上演して大きな拍手をいただいたりする中で，大きくなったら社中の一員になりたいと言う子どもたちも多いと聞きます。また，昨年今年と取り組んでい

ただいた「ふるさと教育推進事業（地域医療）」では，講師となった医師や医学生の子の熱い思いに触れ，自分も医師をめざしたい！そのためにはどんな勉強が，どんな頑張りが必要なのかと，積極的・主体的に質問していた子どももいます。

学校だけではできません

学校は多忙です。地域の「ひと・もの・こと」を知り生かすということにかかる時間はあまりとれないのが実状だと思います。地域との交渉や，素材を紹介するのは，「ふるさと教育担当」ということになっていますが，一人で学校全体のことを任されたのでは負担が増します。しかし，教育委員会が策定する推進計画とネットワーク会議の活用，「コーディネーター」や公民館との連携，さらには「ふれあいルーム」の開設という工夫により，量的・質的充実につなげた学校もあります。また，市町教育委員会の「派遣社会教育主事」や「派遣指導主事」も支援していきますので，ご相談ください。

「子どもは地域の宝」を合言葉に

3月には学校・教育委員会から「実施報告書」を出していただいています。「全体計画を作成する，35時間以上実施する，学校教育活動全体で進める」ことはすべて達成されていますが，重要なのは，その結果，「子ども」「地域」「学校」にどのような変容があったかということです。この事業ではそれを「効果」として示していますので，それに照らして評価をしていただきたいと思っています。

「子どもは地域の宝」は昔から言われていますが，「ふるさと教育」からの発信で，今こそこれを地域の合言葉にしていくときです。「子どもたちから元気をもらった」「頼られてうれしい」などの言葉が聞かれます。子どもの成長，大人の生きがい，そして地域の絆が強まるということで，みんなにいいことづくめ，「三方よし！」です。

ふるさと教育もキャリア教育です。次期教育ビジョンの中で，「しまねの特色を生かした教育＝ふるさと教育」を一層充実・発展させていきましょう。

「進路保障に係る 高校等の訪問」より



同和教育指導員
山本 尚生

同和教育指導員として2年目になります。

今回は、わたしの職務のひとつである「進路保障に係る高校等の訪問」をさせていただいた中で感じたことを少し紹介します。

昨年に引き続き、本年度も管内にある16校の公立・私立高等学校，特別支援学校を訪問させていただき、「困難を抱えるすべての児童・生徒の進路保障の充実」をテーマに各学校の進路保障の推進と同和教育に関する実態把握等について情報交換をさせていただきました。

その中で、ある特別支援学校の校長先生が「児童・生徒の『自尊感情』を育てること」、「やればできるという自信をもたせること」が大切であるということを強調されました。

特別支援教育を実践していく上で「障がいのある児童・生徒の興味・関心，個性，実力を最大限に引き出すために」，全職員が共通理解を図りながら『自尊感情』を育むための授業づくり，達成感のある作業学習や体験学習の実践に向けて教材開発や教材研究に努めておられるということ，またそのことが将来の進路選択や就職活動等に，また高等部卒業後の社会人としての自立に向けた大きな力になるという貴重なお話を伺うことができました。

さらに，定時制高校を訪問した際にも，教頭先生から同様に「生徒の『自尊感情』を育むための教育実践」について熱く語っていただきました。

当校に通って来る生徒には，多少の事情や何らかの困難を抱える生徒もいますが，だれもが安心して通える学校，そして訪れる保護者にとってもほっとできる場所であることが大切であるということばに，学校としての細かな配慮を感じることができました。

また日々の教育実践については，一人一人の生徒が「認められる場」「ほめられる場」「安心できる場」「所属感がもてる場」を意図的に取り入れた生徒を生かす授業，わかる授業，たのしい授業づくりに専念しているという話も聴かせていただきました。

このような取組の成果として、「昨年から今年にかけてほとんどの生徒の出席率が高くなり，通学して来る生徒たちの表情も以前よりも一層明るさを増している。併せて，生徒ひとりひとりの学習意欲も高まり，将来への目標や展望も語るようになってきている。」という報告がありました。

両校での話をまとめてみると、『自尊感情』を育む場として…

学校や学級に…

達成感がもてる教育実践の場がある
自分の役割がある（居場所がある）
みんなから認められる場がある
ほめられる場がある
感謝されることがある
安心できる場がある（ほっとする場がある）
所属感（所属意識）がある
互いの仲間意識が実感できる

このような教育活動が日常的に実践されており「隠れたカリキュラム」が学校全体で組織的に取り組まれている，まさに進路保障そのものであることが実感できる訪問になりました。

特別支援教育の 広がりを感じた 今年度です。



学校教育スタッフ
指導主事 宇野 正一

今回は次の3点についてお伝えします。

- (1) 学校訪問から
- (2) 通常の学級における支援の在り方について
- (3) インクルーシブ教育システムの構築に向けて

(1) 学校訪問から

今年度の特別支援教育に係る学校訪問は、①新設または新任担当の特別支援学級・通級指導教室、②にこにこサポート配置校、③その他申請で計画を立てました。特別支援学級36校、通級指導教室5校、通常の学級3校、にこにこサポート配置校24校の延べ68校にお邪魔することになりました。

「領域・教科等を合わせた指導」または「自立活動」での授業公開をお願いしたところ、各学校において「生活単元学習って?」「自立活動って?」とみなさんで学習指導案等を検討されたこと、大変ありがたく感じました。ともすれば「専門ではないから…」「経験がないから…」ということで学級担任・担当者任せになりがちなか中、全職員で取り組まれた学校が多かったように思います。このような取組が、支援を必要としている子どもたちへの私たち大人の理解を深め、ひいては子どもたち同士の相互理解につながることを思います。

また、「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」の6ページに「小学校又は中学校の通常の学級に在籍している児童生徒の中には…(中略)…こうした児童生徒の指導に当たっては『自立活動』の内容を参考にして適切な指導や必要な支援を行うことが望まれる。」との記載もあり、すべての先生方に「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」をご一読いただくようお願いしてきたところです。

にこにこサポート事業配置校の24校においては、対象児童について「個別の指導計画」や

「個別の教育支援計画」をしっかりと作成した上で、情報交換の工夫をしながら、より良い支援が行われています。

(2) 通常の学級における支援の在り方について

通常の学級における支援については、みなさんが日々悩みながら取り組んでおられることと思います。校内研究で支援の在り方を研究される学校も増え、にこにこサポート事業や市町における支援員を有効に活用されています。

「その子に合った個別の支援」は、とても有効であり重要です。しかしその視点のみでは、人的にも時間的にも限界があります。そこで、「支援が必要な『この子』への支援」を考えつつ、「支援が必要なこの子がいる『学級(集団, 環境)作り』、『授業作り』」の視点が重要となってきています。

これらのことは言うまでもなく、各校ですでに取り組まれていることです。それぞれの詳細については書けませんが、「個から集団へ」という視点で再考いただけると嬉しいです。また「支援」は「減らす・なくす」という方向性を大切にしながら、それでも「今必要」なことはしっかりと行う必要があります。

(3) インクルーシブ教育システムの構築に向けて

昨年夏に文部科学省から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が出されました。それを受けて9月には「学校教育法施行令」の一部が改正され、「就学先決定の仕組み」が改められました。

詳細については省きますが、これまでの「就学指導」を大切にしながら、より一層丁寧な対応が求められることとなりました。「子ども主体」「保護者主体」を大切にしながら、「共生社会」の構築に向けてさらなる取組をお願いします。

【お知らせ】<研修会情報>

浜田広域特別支援連携協議会では、1月14日(火)午後、島根県教育センター浜田教育センターにおいて、研修会を計画しています。

詳細は別途お届けした要項に記載してありますが、「保幼小中高のつなぎ」「小中学校通常の学級における支援」「小中学校特別支援学級における指導」などをテーマに開催します。

特集！ 学力向上

各学校においても、島根県学力調査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上対策が練られていると思います。今回の校長研修Ⅱ（10/30）や教頭研修Ⅱ（11/19）では学力向上についての講義・演習が実施されました。浜田教育事務所でもスタッフ全員で、島根の子どもたち、浜田管内の子どもたちに確かな学力を育むにはどうしたらよいかを協議しました。やはり、日々の授業が一番大事だという意見が多く、それをまとめたものがこのページです。

ここにあげられていることは当たり前のことですが、「当たり前のこと」を当たり前に取り組み、最後までいいに見とどける指導を徹底することが大切なのではないかと思います。



ポイント

学習意欲を高める【コラム】

- ・教師が学習内容についての目的や目標を具体的に示すこと。
- ・中間の目標を立て学習させること。
- ・やや難しい目標を立て、挑戦させること。
- ・家庭学習で学習時間や学習内容の目標を立てさせること。



ノート指導【Q.14】

- ・学習の足跡がふりかえられるノート！
- ・学習内容を定着させるためのノート！
- ・自分の考えをまとめるノートに！

発問や説明を効果的にする話し方【Q.9】

- ～話す内容以上に 子どもたちに語りかけるもの～
- 1 聞く準備
 - ・子どもたちに話を聞く準備をさせる。
 - ・子どもたちの目・手・姿勢・心
 - 2 声の大きさ
 - ・聞き取りやすい声の大きさと話す。
 - ・普通の話し声より大きくハリをもって話す。
 - 3 スピードと抑揚
 - ・普通の話し方よりややゆっくり話す。
 - ・強弱や抑揚をつけて話す。
 - 4 表情とジェスチャー
 - ・生き生きとした表情で話す。
 - ・場面によって身振りや手ぶりを使って話す。
 - 5 視覚による支援
 - ・関連のある板書、資料、写真等を示しながら話す。

屋外の学習でも、板書は効果的じゃ！



「閉じた発問」と「開いた発問」どちらか一方だけでなくそのバランスが大切なんじゃ！

まとめ・ふりかえり【Q.3】

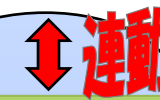
類似問題や発展問題に挑戦したり、ノートのまとめや自己評価をしたりすることは、学習の定着につながります。家庭学習や次時の学習への橋渡しも必ず行いましょう！

ワークシート【Q.15】

ノートに書かせることに加えて、補助的にワークシートを活用することが大切です

ノート指導【Q.14】

学習日時	確認問題
学習課題（めあて）	感想・自己評価
自分の考え	宿題・復習
友達の考え	
学習のまとめ	



板書【Q.13】

月日	単元（題材）名
学習課題（めあて）	まとめ
見通し	
子どもの考え・発表	振り返り
わかったこと	

音声は消えるが、板書は残る！

活動【Q.8】

活動は目的ではなく、手段！

本時のねらいに迫るための学習活動を計画しましょう！

- ・見る ・書く ・話す（Q.11）
- ・動く ・つくる ・考える ・発表する …

学習形態【Q.15】

指導のねらいを達成するために効果的な学習形態を考えましょう！

- ・一斉学習 ・小集団学習 ・個別学習…

目標と指導と評価の一体化【Q.6, 7】

評価は、指導後の子どもの状況を記録するためのみに行うものではありません。どの場面で、どんな方法で評価するのか、あらかじめ計画を立てておきましょう！

宿題・復習【Q.19】

授業で学習したことをつなげながら、家庭学習を充実させることはとても大切です。宿題は出しっ放しにせず、継続的に支援していきましょう！

学習課題

授業をハンバーガーに例えてみるにゃ！

導入

学習課題の把握【Q.3】

スティックを刺すと、ばらけないにゃ！

パンズがないと、ただのハンバーグだにゃ！

展開

学習課題の解決【Q.3】

レタスを加えたり、チーズを加えたり…。おいしさは、アレンジ次第だにゃ！

終末

学習の定着・発展【Q.3】

肉汁がたっぷりしみこんだパンズで、満足するにゃ！

学習環境

よいお皿は、味を一層引き立たせるにゃ！

授業の基礎・基本

「当たり前」を、もう一度意識してみるのじゃ！



学んだことを生活や学習で活用させていきましょう！活用できてこそ本当の力です！

教材研究【Q.4】

次なる学習課題

学習課題【Q.1, 3】

授業を貫く学習課題が子どものものになっていると、学習への意欲が高まります！

「知りたい。」「調べたい。」「できるようになりたい。…」

ねらい【Q.1】

指導のねらいを明確にすると、指導内容や指導方法が具体的にになります！

「何のために教えるのか」「どんな力を付けたいのか」

見通し【Q.1】

1時間の授業のめあてや流れ、次にすることが分かる、安心して課題に取り組むことができます。

「授業の流れの視覚化」「タイマーなどの活用」…

学習環境【Q.8, 9, 18】

よい授業をするためには、学習環境を整えることが極めて重要です！

- ・教室環境の整備 ・学び合う集団づくり
- ・学習習慣等の育成 ・隠れたカリキュラム
- ・教師自身が大きな学習環境(表情・声・姿勢・態度)

学習支援【Q.1】

学ぶ意欲を高めるとともに、個々の理解度や学習進度を考慮した支援が必要です！

「わかった。」「できた。」…

指導技術【Q.8】

よい授業には、効果的な指導技術が不可欠です！

- ・教科書や教具の活用
- ・指名 ・学習形態 …

机間指導【Q.12】

授業展開に応じて、明確な意図をもって行うことが大切です！

- ・順番を考える。
- ・声の大きさを考える。

♣江津市教育委員会 派遣指導主事〈生徒指導〉 岡田和明♣



「不易と流行」そして「バランス感覚」

通信のできる端末機器が増加し、ネットで子どもたちが被害を受けることや、本人の自覚が無い中で加害者になることがおこっています。しかし、もっと怖いのは「依存症」だと思っています。東京の精神科医が講演で、「小中学生にはスマホをもたせるべきではない。」とはっきり言われたことが頭に残っています。今の時代「使わせない。」という考えは時代遅れという声が強いですが、大人のコントロールが必要であることは確かです。これに関して昨年度末に、アメリカの母親が息子にあてた「スマホ 18 の約束」が話題になりました。(日本語訳で、とても素敵な言葉がありました。) 一部紹介します。

- 写真やビデオのすべてを記録する必要はない。自分自身の体験を大切に。体験は永遠に残るもの。
- ととき家置いていきなさい。携帯は生き物でもあなたの一部でもない。これなしでも暮らしていける。取り残されるのを恐れず、器の大きい人間になりなさい。
- 上を向いて歩きなさい。周囲の世界に目を向けなさい。会話をしなさい。グーグルで検索をしないで思考しなさい。(別項で「会話は人生のスキルです。」とありました。)
- 約束を守れなかったら没収します。もう一度話し合い、はじめからやり直しましょう。あなたと私は常に学んでいるチームメイトです。一緒に答えを出していきましょう。

変化の激しい時代。流行に取り残されないように気をつけながらも、流行に飲み込まれないようバランスをとりながら、信念をもって子どもに向き合うことの大切さを改めて感じているところです。

♪江津市教育委員会 派遣指導主事〈学力向上〉 堀 康弘♪



Hello, everyone! 今年度から新たに江津市に派遣されました堀康弘です。

多方面から「あんなに英語を勉強したのに、しゃべれない」と非難を浴びることの多い英語教育ですが、私にも苦い経験がたくさんあります。定期試験の採点をしていて、同様の誤答が続くと、「あんなに丁寧に何度も文型・文法の説明をしたのに」と不満の矛先を生徒に向けたこともありました。

「使えるようになる」ことに着目すると英語は体育などの実技教科との共通点はかなり多いと感じます。「泳げるよう



になる」ことをめざす水泳の授業で、黒板を使って泳ぎ方の解説を詳しく繰り返しても、それだけで泳げるようにはなりません。「あんなに泳ぎ方の説明をしたのに泳げないなんて、ちゃんと話を聞いていたのか」と憤る体育教師はいないでしょう。始めに「ねらい」や「泳ぐときのポイント」を伝えて、プールに入って泳ぐ練習をします。実際に泳ぐ練習をすることで生徒が気づき、教師から指導を受けながら泳げるようになっていくものです。しかも、一度泳げるようになると、なかなか忘れないものです。

ねらいについても、例えば、「一般動詞の過去形を理解する」ではなく、「昨日の出来事について話す(書く)ことができる」と設定し、生徒と共有することが大切です。しかも、十分な練習(言語活動: コミュニケーション活動)後の評価においても、「できるようになったかどうか」にポイントを当てて、指導と評価の一体化をめざします。そして、宿題を工夫し、次時につなげ、定着を図ることも大切です。今、中学校の英語の授業はそうなりつつあります。そのお手伝いをするのが私の仕事です。どうぞよろしくお願いします。

◆江津市教育委員会 派遣指導主事〈学力向上〉 橋井泰治◆

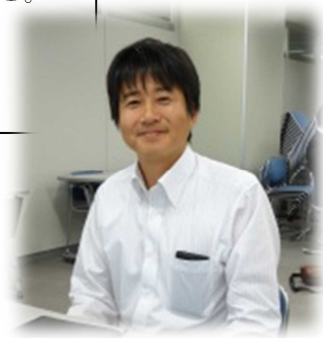
今年度から江津市の派遣指導主事(学力向上担当)として勤務し、市内小学校の理科・算数の授業を中心に訪問しています。訪問する中で、子どもたちのやる気を引き出すために「なぜだろう」と関心をもって取り組めるような課題を提示されたり、ペア・グループ学習を取り入れ子どもたち同士で考えを深めさせる場を設定されたり、素晴らしい取組をたくさん拝見しました。一人ひとりの子どもたちを大切にしながら、熱心に授業を進めておられる先生方の姿に、私自身も多くのことを学ばせていただいています。

授業終了後に先生方へ指導内容の振り返りをお願いしています。特に算数では、県教委や全国学力・学習状況調査結果等の資料を用いながら、次のようなことをお伝えしています。子どもたちの力が、ますます高まることを願っています。

算数・数学における思考力・表現力を高める授業改善の手立てについて

- 学習すること、学習したことを明確にとらえさせること。
- 算数・数学用語を適切に用いて、論理的に説明できる力を身につけさせること。
- 過剰な情報を与えたり、図形の向きを変化させたりした課題に挑戦させること。
- 式から図や問題を考える力を身につけさせる活動を取り入れること。
- 日常生活において、学んだことが活用できる場面を意識させること。

子どもたちから「はしいせんせい」と声をかけてもらえることも増え、たくさんの元気とやる気をもらっています。素敵な子どもたちのために、しっかり先生方をお手伝いしたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。



たくさんのご応募、ご参加ありがとうございました！！

しまね数リンピック

(10月27日)

今年度は県内で1000人を超える参加がありました。

中学生ペアの部 最優秀賞 金
三隅中2年 渡辺 稔さん
三隅中2年 三浦月代さん

【感想】

☆算数はあまり好きではなかったけど、今日楽しくできたので、学校でも楽しく算数の勉強ができる気がする。

(小学校ペア)

☆難しくて悩んだ。でも、2時間という時間が短く感じるくらい楽しかった。

(中学校個人)



大田会場の様子



鳥根県神話絵画コンクール

優秀賞 久屋小2年 佐々木詩歩さん

優良賞 川波小5年 道山 和波さん
浜田三中3年 岩本 瑛月さん
浜田東中3年 北岡 杏菜さん

【お知らせ】『作品展』
入賞作品・佳作(浜田地区)作品
12月11日(水)～15日(日)
浜田市世界子ども美術館



しまね調べ学習プレゼンテーションコンテスト

(11月15日)

浜田市立原井小学校 6年 岡本涼花さん、川上岬大さんは、予選審査を通過し、本選会で「世界で苦しむ人々」というテーマでプレゼンテーションを行いました。見事優秀賞を受賞しました。



本選会の様子

【お知らせ】

12月9日(月)よる9時54分～
TSK(山陰中央テレビ)「しまね情報 CUBE～学びを支える学校図書館」にて、原井小学校の学校図書館活用教育が紹介されます。ぜひ、ご覧ください。



☆☆☆最新の情報，重要な情報，膨大な情報，詳細な情報…

それら情報を「**集め，整理し，役立てる**」…

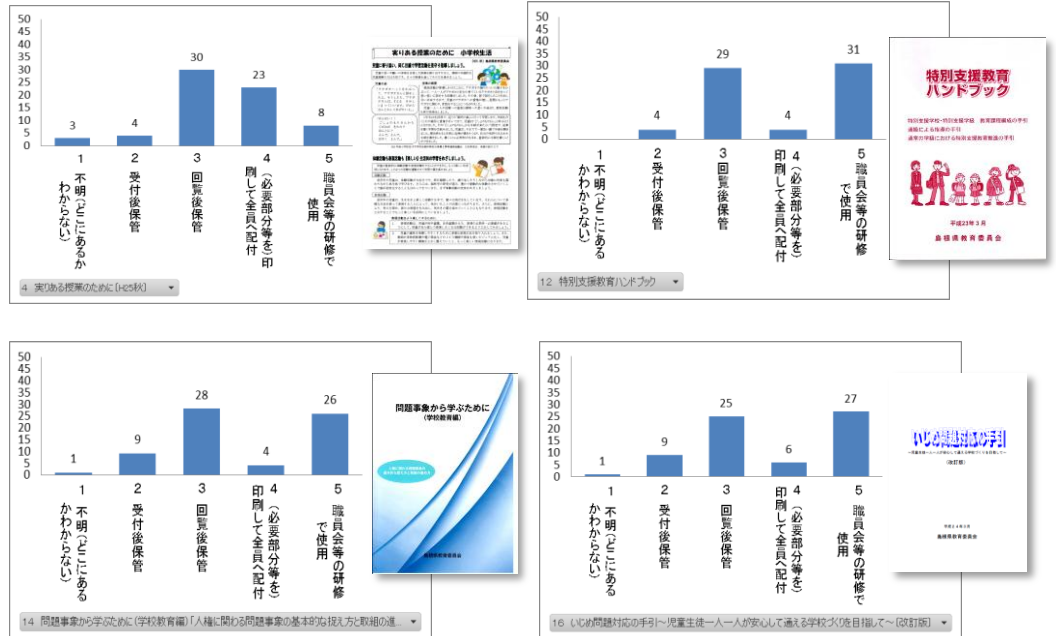
学び続ける教師として，情報活用能力を磨きましょう！！

☆県作成の冊子，リーフレット等の活用状況調査より

11月8日～22日（金）の2週間，「しまね電子申請システムアンケート」を利用し，状況調査を行いました。ご多用の中，ご協力ありがとうございました。結果は下図のようにグラフにして「[島根県教育用ポータルサイト](#)」にありますのでご覧ください。

リーフレット等の種類によって活用状況の違いもみられましたが，多くの学校で，必要な部分を印刷したり研修に使ったりして利用されていることも分かりました。また，今後提供してほしい情報についてのご意見も参考にさせていただきます。

浜田教育事務所 HP の「[配付物情報](#)」では，表紙の画像をクリックすると掲載 HP にジャンプしますので，これからも校内研修等でご活用ください！！



☆事務所だよりのバックナンバーもご活用を！！ (H24…第38号～42号, H25…第43号～)

内容	号	タイトル	執筆者
学校経営 組織マネジメント	第38号	一体感のある組織づくりを	所長 春日 仁史
	第39号	つながり	調整監 杉野本智幸
	第42号	一体感のある組織づくりをすすめるためには	所長 春日 仁史
	第43号	温かな教職員集団の中で育つ子どもたち	所長 春日 仁史
	第44号	絆	調整監 杉野本智幸
	第44号	平成25年度 島根県の教育施策	(浜田教育事務所)
学力向上 授業づくり 校内研修	第39号	新学習指導要領の全面実施に当たって	指導主事 日野原 剛
	第39号	「キャリア教育」と「学習」のおいしい関係	指導主事 羽柴 千晴
	第41号	本との出会い	(浜田教育事務所)
	第42号	校内研究・授業改善に関するアンケートより	指導主事 井口 猛
	第44号	子どもたちの算数・数学教育のために～	指導主事 濱崎 政寿
第45号	特別活動		
心の教育 社会教育	第39号	広がっています 島根のふるまい	ふるまい向上コーディネーター
	第41号	“縁” “つながり” “絆”	社教企画幹 寺本 典則
	第42号	広がっています 島根のふるまい	(浜田教育事務所)
	第43号	心に寄り添う道徳教育, 心に響く道徳の時間を種	指導主事 羽柴 千晴
第45号		学教企画幹 石橋 邦彦	
特別支援教育	第40号	バランスの良い特別支援教育を	指導主事 宇野正一
人権同和教育	第40号	『進路保障』の充実	同和教育指導員 山本 尚生
	第41号	すべての子どもたちが安心して楽しく学び合うために	指導主事 井口 猛
生徒指導	第39号	夏休みに向けて	生徒指導専任主事 伊津洋士
	第40号	実りの礎 (いしづえ)	学教企画幹 川田 英樹
	第44号	夏休みに向けて	生徒指導専任主事 伊津洋士
学校事務	第40号	総務グループから学校事務職員の皆さんへメッセージ	総務グループ
	第45号	総務課特集！	総務課